

異文化間教育学会 第 35 回大会

プログラム 目次

異文化間教育学会 第 35 回大会ご挨拶	1
大会参加者へのご案内	2
大会日程	4
同志社女子大学 今出川キャンパスへのアクセス	5
キャンパスマップ	6
懇親会場	7
会場案内	8
フロアマップ	9
プレセミナーのご案内	12
特定課題研究	13
第 35 回大会企画 公開シンポジウム	14
多文化系学会連携事業 ランチセッション	15
つながりカフェ 若手研究交流会	16
発表について	17
異文化間教育学会「優秀発表賞」について	18
研究発表プログラム	19
個人発表	20
共同発表	28
ケース／パネル発表	30
ポスターセッション	31
第 35 回大会賛助団体ご芳名	33
異文化間教育学会第 35 回大会準備委員会	41

異文化間教育学会 第 35 回大会 ご挨拶

塘 利枝子（同志社女子大学）

異文化間教育学会の第 35 回年次大会を、同志社女子大学 今出川キャンパスで開催させていただくことになりました。今出川キャンパスは京都駅から京都地下鉄烏丸線で 10 分の京都御所の北側に位置しており、交通の利便性と緑の豊かさを兼ね備えたキャンパスです。

同志社女子大学は 1876 年、京都の地に同志社の創設者・新島襄、妻・八重、アメリカ人宣教師 A.J. スタークウェザーらによって設立されました。NHK 大河ドラマでも取り上げられました新島八重は会津藩で生まれ、その後、京都に移り住み新島襄と出会い結婚しました。江戸から明治・大正・昭和の激動の時代の中で、様々な異文化接触を繰り返し、宗教、性役割観、職業観、結婚観など、新しい考え方や伝統との間で、「自分とは何か」を常に模索しながらアイデンティティを形成していった人です。今出川キャンパス内外には重要文化財の建築物が多くございますので、お時間がありましたら是非ご覧下さい。その当時の八重や、大きな歴史的転換に立ち会った人々の息づかいを感じながら、現代の京都の息吹が感じられる大会にしたいと思っています。

現代の京都は外国にルーツをもつ人々が、様々な目的を持って行き交っています。外国人観光客、留学生、韓国朝鮮籍をもつ人々、国際結婚等によって来日した中国籍、フィリピン籍をもつ人々やその子どもたちなど、滞在目的も期間も異なる彼らは、京都の伝統的な文化や習慣と隣り合わせで暮らしています。近隣の府県には日系ブラジル人、フィリピン人等が多く在住する地域もあります。第 35 回大会では、外国にルーツをもつ人々を支える人々に焦点をあてたシンポジウムを企画しています。

6 月の京都は、5 月の葵祭、7 月の祇園祭に挟まれ、やや落ち着いた時期であり、緑美しい季節です。大会での学びや出会いはもちろんのこと、季節の京都らしさとの出会いも楽しみつつ、京都の「今」を感じる大会に是非お越し下さい。心よりお待ち申し上げます。

2014 年 4 月 30 日

異文化間教育学会

第 35 回大会準備委員会

委員長 塘 利枝子

大会参加者へのご案内

大会日程

大会会期：2014(平成26)年6月7日(土)-6月8日(日)

会 場：同志社女子大学 今出川キャンパス 純正館

※懇親会：2014年6月7日(土) 18:30-20:00

会場：新島会館

※プレセミナー：2014年6月6日(金) 13:30-17:00

会場：楽真館 R001, R009

参加資格

会員・非会員を問わず、どなたでもご参加いただけます。

参加申し込み

事前申し込みをされる方は、大会参加費および懇親会費を、5月15日(木)までにお振込みください。

5月15日以降は、大会当日に当日料金をいただくこととなりますことをご了承ください。

web 入力をお願い

5月15日(木)までに参加申し込みを希望される方は、会員・非会員とも以下の第35回大会ホームページ内「参加・発表の申し込み」ページよりお手続きください。

(<http://www.intercultural.jp/iesj2014/index.html>)

お申し込み手続き終了後、登録受付完了メールが自動送信されますので、参加費合計金額などの内容をご確認ください。メールを受信後1週間以内に、諸費用を指定口座までお振込みください。参加費の受領をもって、参加申し込みの受付完了といたします。

大会参加費および懇親会費

		事前料金 (5月15日まで)	当日料金
大会参加費	正会員	5,000円	6,000円
	学生会員	3,000円	4,000円
	通信会員	5,000円	6,000円
	非会員(一般)	6,000円	7,000円
	非会員(学生)	4,000円	5,000円
	維持会員	1口1名様無料	7,000円
	名誉会員	ご招待	
懇親会	正会員	5,000円	6,000円
	学生会員	2,000円	4,000円
	通信会員	5,000円	6,000円
	非会員(一般)	5,000円	6,000円
	非会員(学生)	3,000円	5,000円
	維持会員	5,000円	6,000円
	名誉会員	5,000円	6,000円

お払い込みいただいた参加費などは、理由を問わず返却いたしません。予めご了承ください。

- 参加費をお振込みいただく際は、参加者 1 名につき 1 枚の払込取扱票をご使用ください。領収書は、当日に受付でお渡しいたします。
- 6 月 7 日は午前 9 時より、8 日は午前 8 時 30 分より受付を行いません。受付にて名札をお受け取りいただき、大会会期中はその名札をご着用ください。
- 特定課題研究、公開シンポジウム、個人発表、共同発表、ケース/パネル発表、ポスターセッションの発表者および司会者の方は「発表者・司会者受付」にお越しください。
- 会場には一般来訪者用の駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。
- 6 月 7 日・8 日の両日も大学食堂は営業していません。当日「ランチマップ」を配布しますが、弁当の事前申し込みを受け付けます。詳細は既に会員にお送りしているメールニュースをご覧ください。当日の弁当の受け渡しは 1F 受付付近です。

問い合わせ先：ibunkaky@dw.doshisha.ac.jp

- 宿泊は各自でご手配ください。

連絡先

大会・Web 申し込み・お支払いに関するお問い合わせ

異文化間教育学会大会ヘルプデスク

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 (株)国際文献社内

E-mail：iesj-desk@bunken.co.jp

Fax：03-5227-8632

会員登録に関するお問い合わせ

異文化間教育学会事務局会員業務係

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 (株)国際文献社内

E-mail：iesj-post@bunken.co.jp

Fax：03-3368-2822

大会当日に関するお問い合わせ

第 35 回大会準備委員会事務局

〒610-0395 京都府京田辺市興戸 同志社女子大学 田辺キャンパス 塘 利枝子研究室内

*なお、当日の大会は今出川キャンパスで行いますので、お間違いのないようにお越し下さい。

E-mail：ibunkaky@dw.doshisha.ac.jp

大会日程

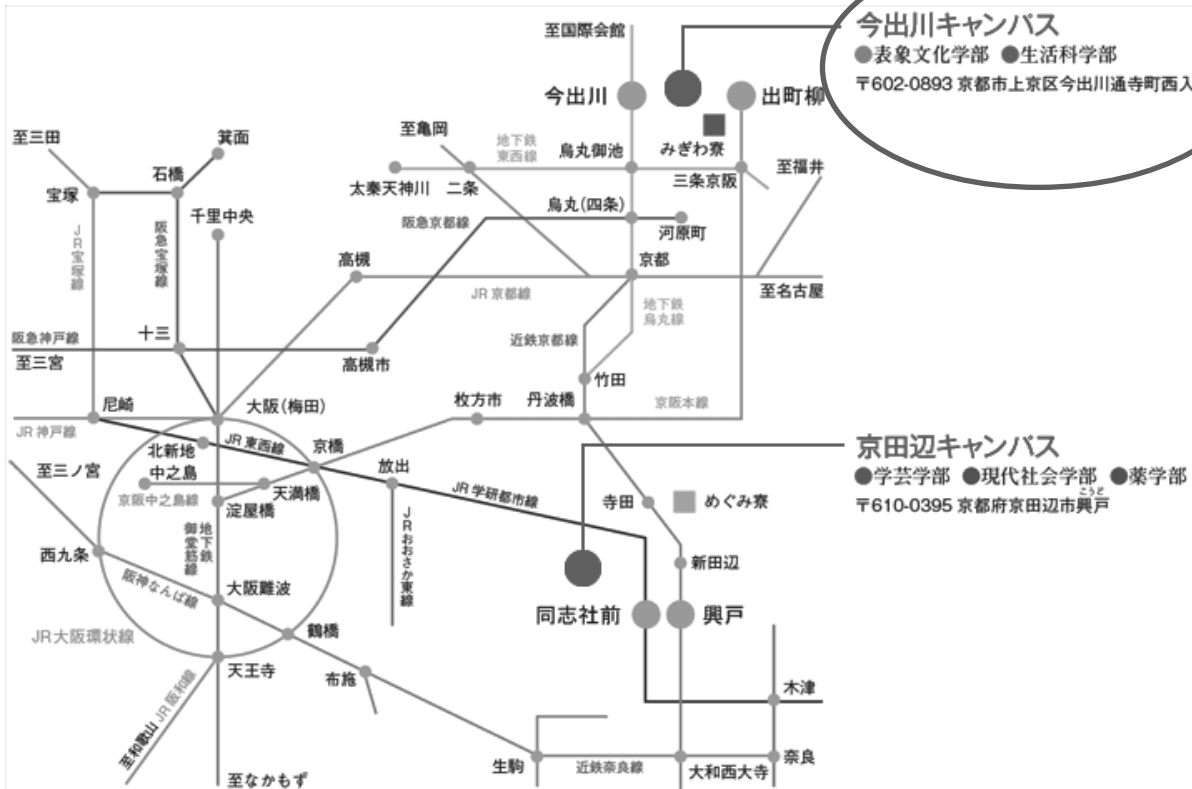
	6月6日(金)	6月7日(土)	6月8日(日)
8:30			8:30- 受付 (純正館1Fエントランスホール)
9:00		9:00- 受付 (純正館1Fエントランスホール)	9:00-12:00 シンポジウム 「生涯発達を踏まえた日本における外国にルーツをもつ人への支援—保育・教育・子育ての視点から—」 (地下1F S013教室)
9:30		9:30-12:00 特定課題研究 「実践をまなごし、現場を動かす異文化間教育学とは」 (地下1F S013教室)	
12:00		12:00-13:00 昼食	12:00-13:00 昼食
12:10		12:00-13:30 若手研究交流会 (5F S506教室)	12:10-12:50 多文化系学会連携事業ランチセッション (1F S103教室)
		12:00-13:00 各種委員会 広報・情報化 企画・交流 紀要編集 (4F S408教室)	12:30-15:30 ポスターセッション (在籍時間 12:50-13:30) * (5F S503教室, S504教室)
12:30			
13:00	13:00-受付 (楽真館地下1F R001)	13:00-14:00 ポスターセッション (在籍時間13:00-14:00) (5F S503教室, S504教室)	
13:30	13:30-17:00 プレセミナー 「フィールドワークで「研究」を、そして「論文」へ—文化人類学、教育社会学、発達心理学からのアプローチ—」 (楽真館地下1F R001, R009)	14:00-15:00 総会 (地下1F S013教室)	13:30-16:30 共同発表 (3F S302教室) (4F S403~405教室)
14:00		15:00-18:00 個人発表 (1F S105教室) (3F S301~S303教室 S308~S309教室) (4F S401~S405教室)	13:30-16:30 個人発表 (3F S301, S303, S308, S309教室) (4F S401, S402教室)
15:00			
15:30			
16:00			
16:30			
17:00			
17:30	17:30-20:30 理事会 (ジェームズ館2F J207)	懇親会場に移動	
18:00		18:30-20:00 懇親会 (新島会館)	
18:30			
19:00			
20:00			

*ポスターセッションの発表は2日間にわたって掲示します。発表者は、1日目の在籍時間には必ず在籍して下さい。

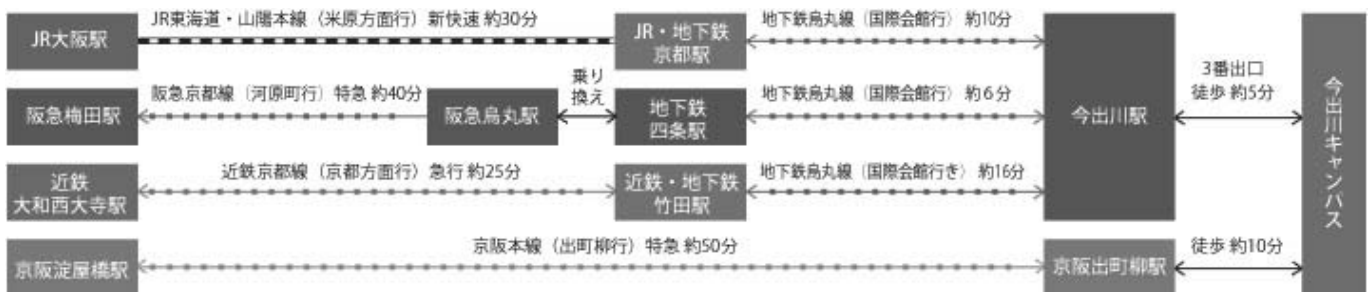
2日目の在籍時間に関しては任意の在籍となります。

同志社女子大学へのアクセス①

■ 同志社女子大学 今出川キャンパス 所在地



■ 交通のご案内



プレセミナー・大会 (同志社女子大学 今出川キャンパス)

※**新幹線・JR**でお越しになる方は、JR 京都駅で乗り換え、地下鉄烏丸線京都駅から今出川駅（3番出口）までは約10分です。料金は地下鉄京都駅から260円です。3番出口から地上に上がり、京都御苑を右手に見て、今出川通りを鴨川方面に歩いていくと正門まで約5分で到着します。

※**阪急京都線**でお越しになる方は、阪急烏丸駅で乗り換え、地下鉄烏丸線四条駅から今出川駅（3番出口）まで約6分です。料金は地下鉄四条駅から260円です。

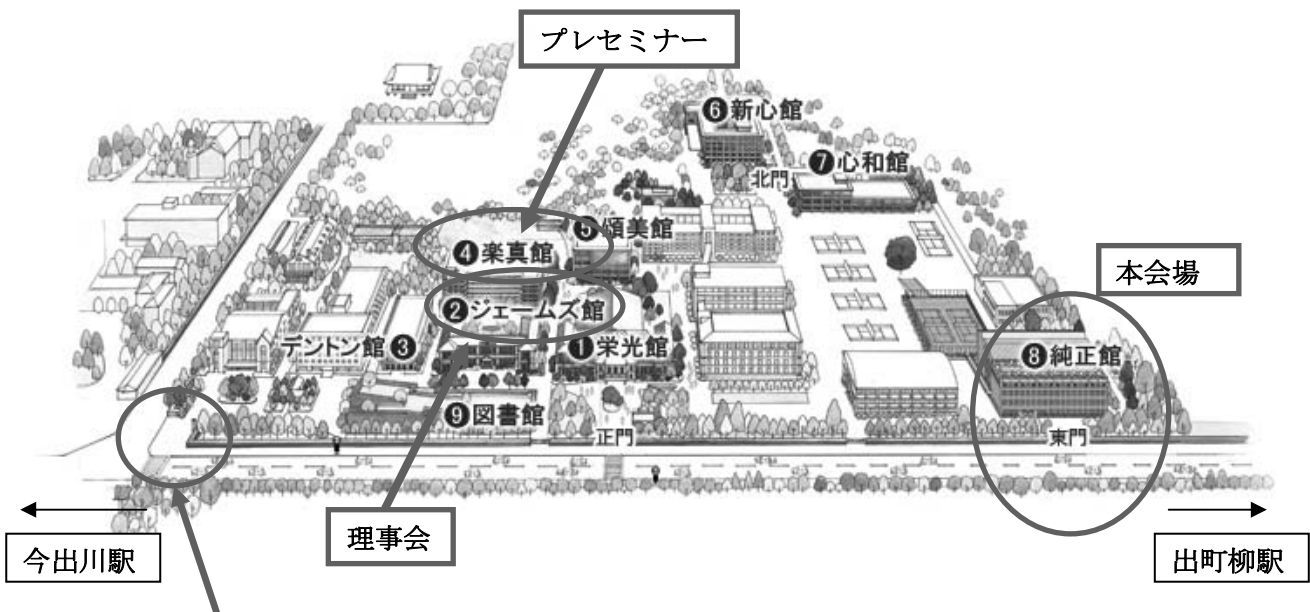
※**京阪本線**でお越しになる方は、京阪出町柳駅下車です。3番出口から地上に上がり（エレベータ・エスカレータなし）鴨川を渡り、そのまま今出川通をまっすぐ歩くと、左手に京都御苑が見えてきます。大学の東門までは駅から約10分です。エスカレータを使用なさる方は7番出口からとなりますが、大学までは遠くなります。プレセミナー（6日）は正門から、大会（7日、8日）は東門から入ると便利です。大会が行われる純正館は東門から入ってすぐの建物です。

同志社女子大学へのアクセス②

※大会会場にも懇親会場にも駐車場はありません。公共交通機関をご利用下さい。



キャンパスマップ



正門ではありません。金曜日のみ同志社女子大学に通じる門が開いています。土・日曜日は同志社女子大学に通じる門は閉まっていますので、ここからは入ることができません。ご注意ください。

懇親会場（新島会館）

住所：〒602-0867 京都市上京区寺町通丸太町上ル 新島会館

TEL：075-251-4393 / FAX：075-253-2171

※ 懇親会場は学外で、新島旧邸（重要文化財）の隣です。新島会館までは同志社女子大学 純正館（大会会場）から徒歩約15～20分（タクシーで約7～8分）です。個人研究発表終了後にご案内します。

※ 会場まで少し距離がありますので、タクシーのご利用も可能です。その際には御自分で手配なさって下さい。受付付近にタクシー会社の電話番号を掲示しています。混み合う時間帯ですので余裕を持って予約してください。

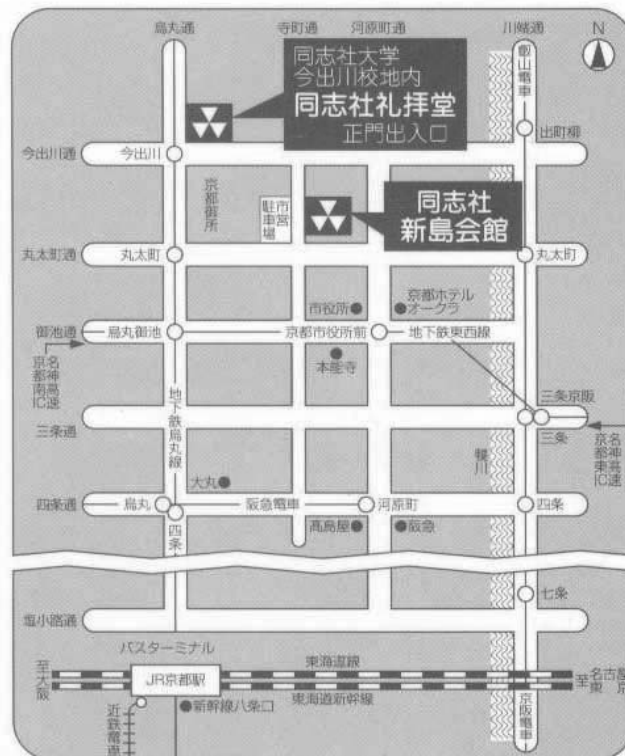
ご案内図

同志社礼拝堂

京都市上京区烏丸今出川東入ル
出入口は正門のみです。〒602-8580
※車の入構は一切できません。

同志社新島会館

京都市上京区寺町通丸太町上ル
☎075(251)4393 〒602-0867
※新島会館には駐車場はございません。



同志社礼拝堂

- ◎JR・近鉄京都駅よりタクシーで約30分
- ◎地下鉄今出川駅より徒歩東へ約5分
- ◎阪急烏丸駅よりタクシーで約10分

同志社新島会館

- ◎JR・近鉄京都駅よりタクシーで約20分
- ◎地下鉄丸太町駅より徒歩東へ約10分
- ◎地下鉄京都市役所前より徒歩北へ約15分

会場案内

大会前日 6月6日(金) 楽真館 地下1F R001, R009

プレセミナー受付 13:00-
プレセミナー 13:30-17:00

理事会 ジェームズ館 2F J207
17:30-20:30

大会第1日 6月7日(土) 純正館

受付	9:00-	1F	エントランスホール
特定課題研究	9:30-12:00	地下1F	S013 教室
若手研究交流会	12:00-13:30	5F	S506 教室
広報・情報化委員会	12:00-13:00	3F	S305 教室
企画・交流委員会	〃	〃	S306 教室
紀要編集委員会	〃	4F	S408 教室
ポスターセッション	13:00-14:00	5F	S503 教室、S504 教室
総会	14:00-15:00	地下1F	S013 教室
個人発表	15:00-18:00	1F、3F、4F	の各教室
懇親会	18:30-20:00		新島会館

大会第2日 6月8日(日) 純正館

受付	8:30-	1F	エントランスホール
公開シンポジウム	9:00-12:00	地下1F	S013 教室
ランチセッション	12:10-12:50	1F	S103 教室
研究委員会	12:00-13:00	3F	S306 教室
ポスターセッション	12:30-15:30	5F	S503 教室、S504 教室
個人発表	13:30-16:30	3F	S301 教室、S303 教室、S308 教室、 S309 教室
共同発表	13:30-16:30	〃	S302 教室
		4F	S403 教室、S404 教室、S405 教室
ケース／パネル発表	13:30-16:30	〃	S401 教室、S402 教室

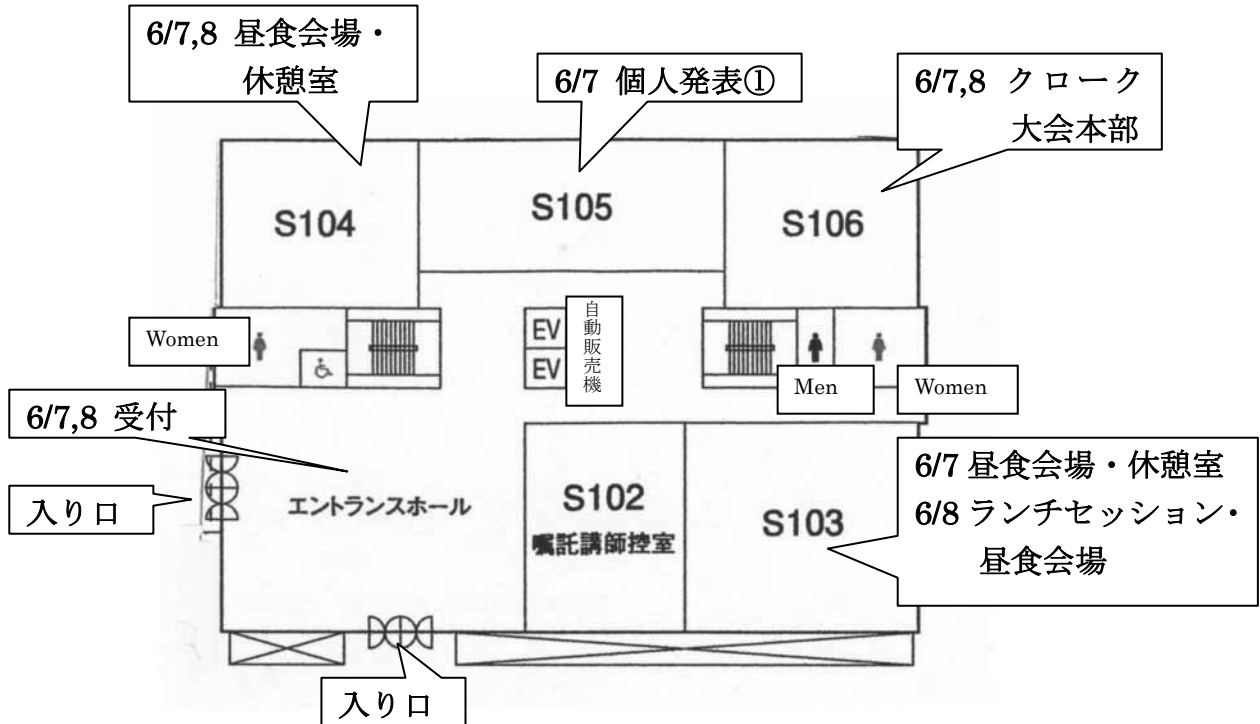
- 大会本部 1F S106 教室
- 学会本部 3F S304 教室
- 昼食会場・休憩室 1F S103 教室、S104 教室
5F アカデミックラウンジ・屋上庭園
(自動販売機)
- 会員打ち合わせ室・控え室 3F S307 教室
4F S407 教室
- 書籍展示 5F S501 教室、S502 教室、S505 教室
- クローク 第1日 9:00-18:00 1F S106 教室
第2日 8:30-16:30

※クロークへお預け入れの際に預かり証をお受け取りください。貴重品はお預かりできません。

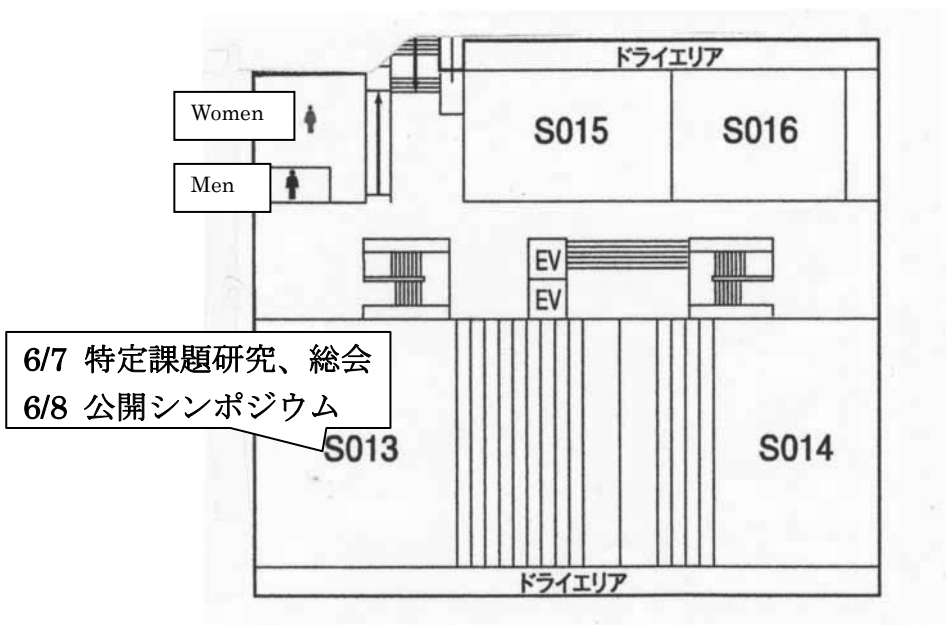
フロアマップ

純正館

1階 受付・クローク、個人発表①、ランチセッション

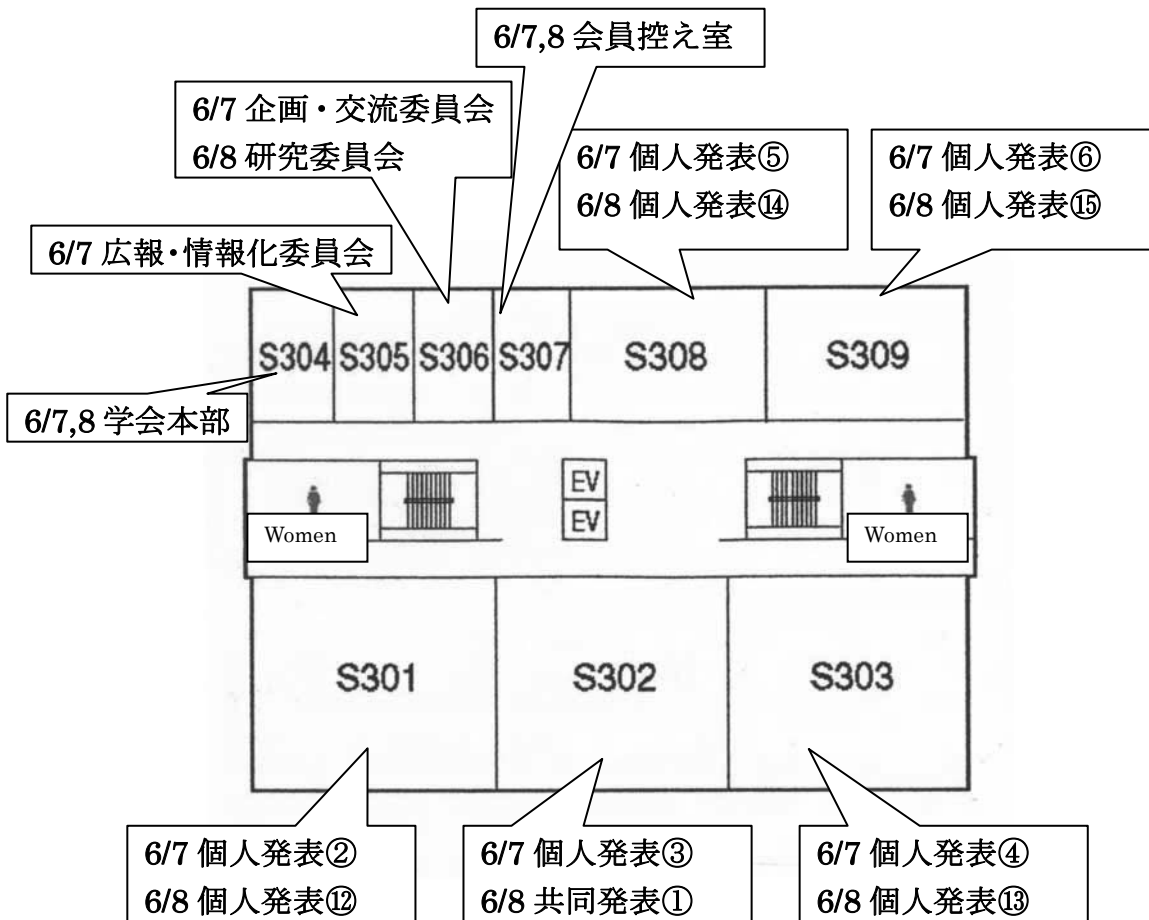


地下1階 特定課題研究、総会、公開シンポジウム

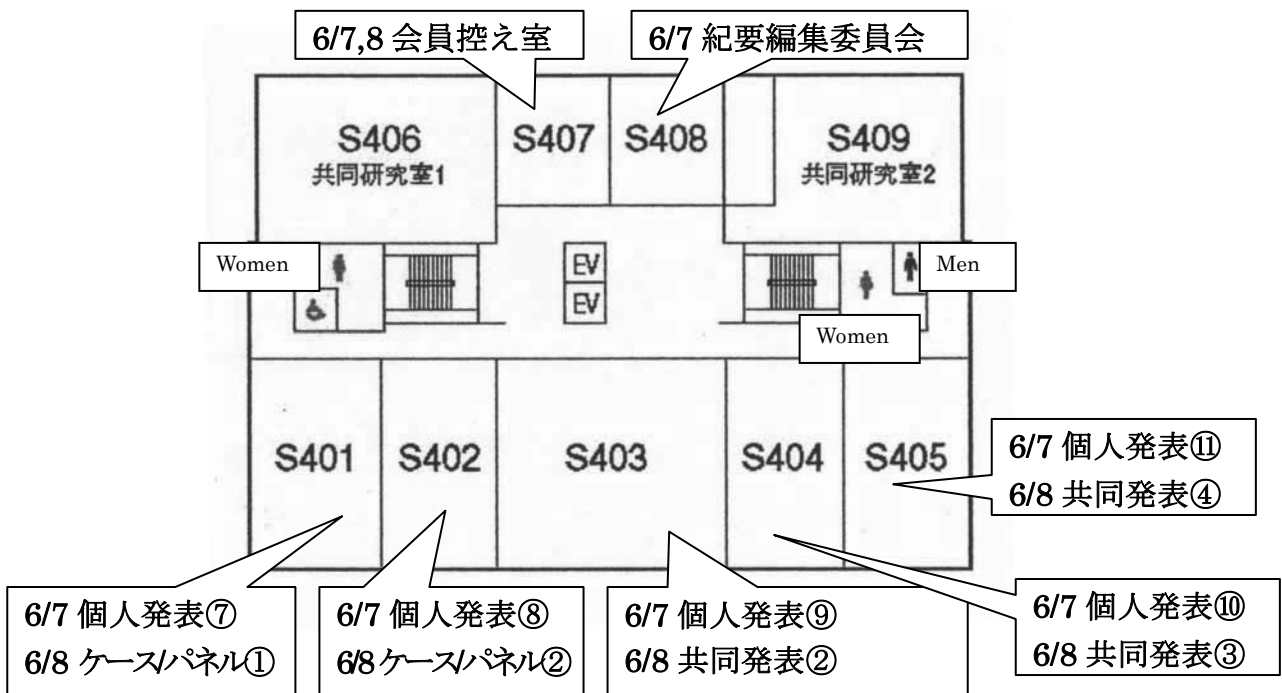


純正館

3階 個人発表②～⑥、⑫～⑮、共同発表①

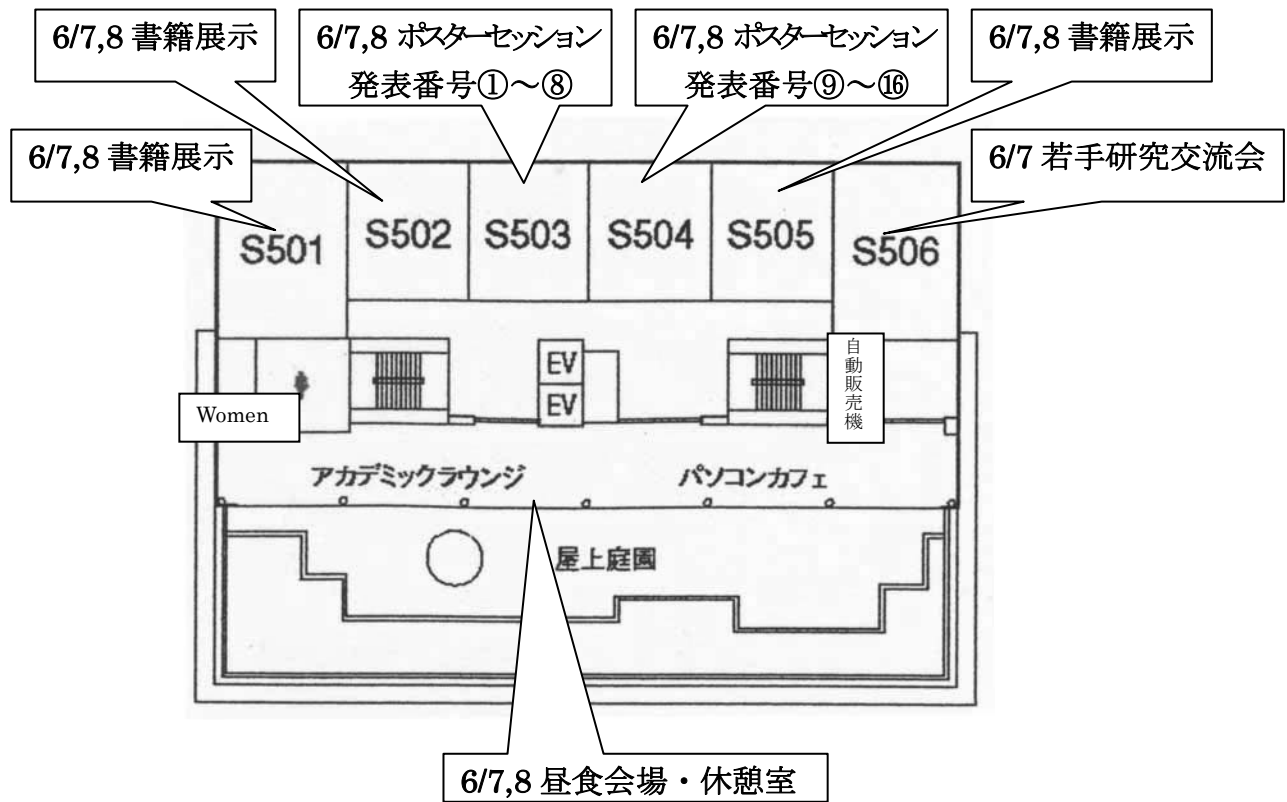


4階 個人発表⑦～⑪、共同発表②～④、ケース/パネル①～②



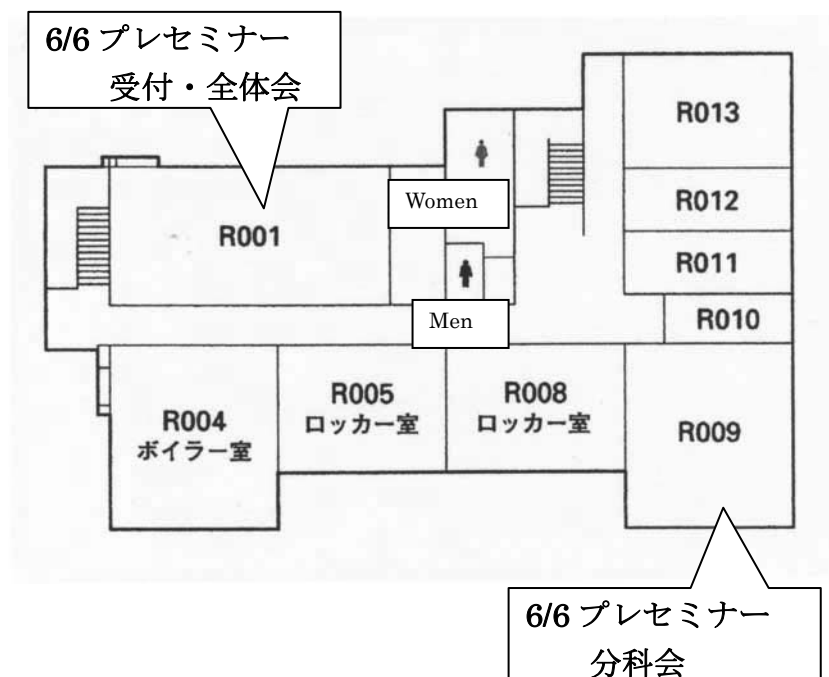
純正館

5階 ポスター発表、若手研究交流会、書籍展示



楽真館

地下1階 プレゼミナー



プレセミナーのご案内

6月6日（金）13:30-17:00（受付開始 13:00）

楽真館地下 1F R001, R009 教室

フィールドワークで「研究」を、そして「論文」へ ー文化人類学、教育社会学、発達心理学からのアプローチー

●企画趣旨：

今回のプレセミナーは、異文化間教育学の隣接領域である文化人類学、教育社会学、発達心理学を専門とし、かつフィールドワークを研究手法に取り入れている 研究者 3 人を迎え、各領域におけるフィールドワークの実践方法を紹介してもらいながら、異文化間教育学としてのフィールドワーク研究について考えます。

異文化間教育学学会においても、フィールドワークの手法を用いて研究や実践をする会員が多くみられます。研究の焦点の当て方、データ収集、データ加工の仕方、論文や報告書のまとめ方などを、3 人の研究者の実際の研究から学ぶ機会にしたいと思います。

多くの方のご参加をお待ちしております。

- 講師： 南出和余（桃山学院大学） 文化人類学からのアプローチ
佐藤千瀬（聖学院大学） 発達心理学からのアプローチ
渋谷真樹（奈良教育大学） 教育社会学からのアプローチ

- 募集人員： 50 名（定員になり次第、先着順にて締め切らせていただきます。）

- プレセミナー参加費： 学生会員 3,000 円 正会員・通信会員 4,000 円
非会員 5,000 円 非会員（学生） 4,000 円

- お申し込み方法： 大会 HP よりお申し込みください。

<http://www.intercultural.jp/iesj2014/seminar.html>

- お問い合わせ先： 異文化間教育学学会第 35 回大会ヘルプデスク iesj-desk@bunken.co.jp

特定課題研究

6月7日(土) 9:30-12:00

地下1F S013教室

実践をまなざし、現場を動かす異文化間教育学とは？

異文化間教育学は、異文化間教育の理論を構築する営みとしての実証科学の側面と、その研究成果である理論を意図的に教育実践に活かす営みとしての実践科学の側面を、二つの柱として発展してきた。しかし、近年は、人々の文化間移動の常態化を背景に、「理論と実践」という二項対立の構図の書き換えが叫ばれるようになり、異文化間教育学には、実践に参加する人々が、多様な対象との相互行為の内に捉えた知を、共有し、編集していくことが求められている。そこで、第35回大会の特定課題研究では、異文化間教育学は「実践をいかにまなざしていくのか」、そして、「そのまなざしによって創造される知は、現場をいかに動かさうのか」を議論する。そのための仕掛けとして、特定課題研究においては、ある1つの実践を、異文化間教育学の各領域の研究視点から読み解き、その交差によって多角的、複層的に実践の姿を描き出すことを試みる。この編集作業を通して、「実践をまなざし、現場を動かす異文化間教育」について議論し、異文化間教育学の今後を展望する。

コーディネータ 齋藤 ひろみ (東京学芸大学)

実践報告 大和プレスクール『にほんごひろば』

—小学校入学前の多様な言語背景を持つ子どもたちへの就学前教育・保護者支援—

矢沢 悦子 (NPO 法人日本ペルー共生協会 大和プレスクール担当者)

発題1 現場を動かす異文化間教育学について考える

— 就学前教育と初等教育の接続の立場から —

山田 千明 (山梨県立大学)

発題2 人権教育の立場からの「理論と実践」

—頭を叩かれながら「実践知」が生まれ理論化ができるのでは?—

田淵 五十生 (福山市立大学 教育学部)

発題3 タイと兵庫のネットワーク研究から考える理論と実践

—理論と実践をつなぐフィールドワーク調査の可能性—

野津 隆志 (兵庫県立大学)

企画：研究委員会

齋藤ひろみ (委員長 東京学芸大学) 佐藤郡衛 (副委員長 目白大学)

野山 広 (副委員長 (独) 国立国語研究所) 浜田麻里 (京都教育大学)

見世千賀子 (東京学芸大学)、南浦涼介 (山口大学)

第 35 回大会企画 公開シンポジウム

京都府教育委員会後援

京都市教育委員会後援

6月8日(日) 9:00-12:00

地下1F S013教室

生涯発達の視点を踏まえた日本における外国にルーツをもつ人への支援 —保育・教育・子育ての視点から—

2013年に外国人を初めて対象とした人口動態調査が行われた(総務庁,2013)。これは3ヶ月を超えて日本に滞在する外国人が2012年7月から住民基本台帳に登録されるようになったため、2013年3月31日時点で、日本における外国人は総人口の1.54%にあたる1,980,200人に上った。総務庁のいう外国人とは、日本の国籍を有しない者で3ヶ月を超えて日本に滞在する者を指す。親のどちらかが日本国籍を持っている場合、その子どもは日本国籍を持つことができるが、その場合住民基本台帳の「外国人」には含まれない。したがって年間約25,000組の国際結婚が行われている現状を踏まえると、本人は日本国籍を持っていても家庭内に外国籍をもつ親族がいたり、二重国籍を持つ者もいる。このような人々の存在を鑑みると、保育・教育・子育てへの支援を必要としている外国にルーツを持つ人は、さらに多くなると考えられる。

以上のような日本の多文化化する状況を踏まえ、異文化間教育学会のなかでも外国にルーツをもつ子どもの教育についてはたびたび取り上げられてきた。本シンポジウムでは、このような子どものみならず、彼らを取り巻く大人にも焦点をあてて、生涯発達の視点を踏まえた外国にルーツをもつ人への支援のあり方について見ていく。

第1に、対象者の発達段階による支援の方法や内容の類似点や相違点を比較する。第2に、国籍等の違いによる支援の方法や内容の違いにも焦点をあてながら、外国人が持つ文化的・社会的な背景によって支援の仕方が異なるのかについて検討する。第3に、同じアジア圏であり、外国にルーツをもつ子どもが日本以上に多く居住している台湾や、国際結婚家庭に対する制度改革が試みられている韓国とも比較をしながら、今後の日本における外国にルーツをもつ人々への支援について考える。

●企画と司会

塘 利枝子(同志社女子大学、大会委員長)

●シンポジストと発表テーマ

「幼児期の子どもと保護者への支援」

足利 秀子(京都市立砂川保育所)

「中国をルーツに持つ中学生とその保護者への支援」

宮崎 愛子(宇治市立南宇治中学校)

「外国にルーツを持つ子ども達の児童期から中・高校生、
そして保護者への支援—地域、学校、行政とのかかわりの中で—」

吉積 尚子(ワールドアミーゴクラブ)

●コメンテーター

「在日韓国朝鮮人や韓国における支援の観点から」

金 侖貞(首都大学東京)

「台湾における外国にルーツをもつ家庭への支援」

翁 麗芳(国立台北教育大学)

※参加費無料、どなたでもご参加いただけます。

多文化系学会連携事業 ランチセッション

6月8日(日) 12:10-12:50

1F S103 教室

報告「ワールドカフェで考えよう—多文化社会における居場所づくり」

2012年度より異文化間教育学会・日本語教育学会・日本コミュニティ心理学会・日本学校教育学会による連携事業が始まり、多文化社会を担う人材育成を目的とした様々な研修会を実施しております。

昨年に引き続き、日本コミュニティ心理学会国際交流委員会企画として、2013年度日本コミュニティ心理学会大会ワークショップの中で「多文化社会における居場所づくり」をテーマとし、「ワールドカフェ」を用いた対話型研修会を行いました。学校、地域などのコミュニティの中で居場所づくりのきっかけとなるように、自由な対話から生まれる新しいアイデアや情報の共有、日頃の研究・教育活動の内省を深めていただきました。

当日の様様をビデオ作品として編集いたしました。みなさんにご覧いただき、運営関係者による解説を交えながら意見交換をさせていただければ幸いです。

なお、本研修会のDVDは2013年度公文国際奨学財団からの研究助成金により作成されました。

異文化間教育学会事務局
多文化系学会連携協議会事務局

*当日、昼食はご持参ください。

つながりカフェ～若手研究交流会～

6月7日(土) 12:00-13:30
5F S506 教室

本大会では「つながりカフェ」と題して若手研究者の交流の場を設けます。自身を「若手」と思われる方なら、どなたでも参加いただけます。昼食を取りながら気軽な雰囲気です。交流できたらと考えています。ふるってご来場ください。

※昼食は各自ご持参ください。

■「つながりカフェ～若手研究交流会～」とは

21世紀に入り我々の周囲では異文化間教育をめぐって次々と新たな課題が生起してきており、この領域の重要性はますます増してきています。こういった課題に対応するためには、若々しい知性がこの分野において思う存分に活躍できるような場づくりが必要です。

つながりカフェでは、若手研究者を支援する環境づくりとして、(1)異世代間の対話、(2)同世代の連帯、の二つを実現することを目指します。今回は、ベテラン研究者である会員を囲んでお話を伺い、また、若手研究者同士で議論を行う場を作ります。

■発題

山田礼子会員(同志社大学) 「大学を動かす異文化間教育」

■コメンテーター

齋藤真宏会員(旭川大学)

中川祐治会員(福島大学)

■司会

南浦涼介(研究委員会委員・山口大学)

■概要

発題者からご自身の研究者としてのキャリアやそのターニングポイントとなったことがらをめぐってお話をいただいたあと、コメンテーターと発題者で質疑を行います。

このやりとりを受け、来場者でグループに分かれて、ディスカッションを行い、対話と連帯を深めます。

(研究委員会)

発表について

研究発表は、以下の種別で行なわれます。発表者、題目、時間帯、会場などの詳細は、それぞれの部会のページをご覧ください。

個人発表

共同発表

ケース／パネル発表

ポスターセッション

■個人発表、共同発表、ケース／パネル、ポスターセッション 発表要領

1. 発表時間（交代時間を含む）

- A. 個人発表 30分（発表20分、質疑応答10分）
- B. 共同発表 60分（発表40分、質疑応答20分）、100分（発表80分、質疑応答20分）
- C. ケース／パネル発表 90分（発表50分、質疑応答40分）

※会場での運営は、各グループでお願いいたします。

参加者による質疑応答の時間を確保するようご配慮ください。

- D. ポスターセッション 6月7日（土）13:00-14:00（在籍時間：13:00-14:00）

※上記の時間帯は持ち場を離れないでください。会場は12:00からご使用いただけます。翌日の8日（日）15:30まで掲示しておいて下さい。

- 6月8日（日）12:30-15:30（在籍時間：12:50-13:30）

※在籍時間を設けていますが、必ずしも持ち場にいる必要はありません。

15:30にポスターを撤去して下さい。2日目に会場にいない方に関しては、大会準備委員会に事前にご相談下さい。17:00までに撤去されないポスターに関しては、事務局の方で処分致します。

ポスターパネルのサイズは横90cm×縦210cmです。ポスター掲示範囲は、横90cm×縦180cm以内が適当です。

2. 配布資料

- ・ハンドアウトを配布される方は、1発表につき50部程度ご用意ください。なお、大会準備委員会では印刷をお受けすることはできませんことを予めご了承ください。
- ・停電などによりPCが使用できない場合にお備えください。

3. 使用機器

- ・発表を申し込まれた方には、別途機材などに関するご案内をお送りいたします。
- ・会場校にて各教室にPCとプロジェクタを用意しますが、万が一接続などの問題が発生した場合に備え、ご自身のノートPCもお持ちください。Macの場合はアダプタもご用意ください。
- ・機材の操作は発表者ご自身で行なってください。

4. 発表者欠席の場合

- ・やむを得ない事情により発表者が欠席する場合には、できるだけ前日までに大会準備委員会にお知らせください。

※第35回大会準備委員会 e-mail: ibunkaky@dwc.doshisha.ac.jp

- ・発表取りやめがあっても、プログラムの繰り上げはいたしません。

異文化間教育学会「優秀発表賞」について

異文化間教育学会では、異文化間教育学の発展を期して、学会員の研究発表を奨励し、研究発表の向上を踏むことを目的として、「優秀発表賞」を設けています。この賞は、若手の研究者を対象に、当該大会における「個人研究の個人発表」の中から、優秀と評価された発表に与えられるものです。

この発表賞は、今大会で第3回目になりますが、昨年度の大会と変更があります。すでに大会 HP 等でも示してあるとおり、優秀発表賞の審査を受けるためには、発表者自身が受賞資格の条件（注）のいずれかに該当することを申告し、審査対象となる意思を表明する必要があります。

審査方法については、エントリーされた発表ごとに2名の評価者（研究委員会により委嘱）が会場で評価します。選考方法については、学会 HP に掲載してある選考手続きおよび規定に基づき、別途、優秀発表賞審査委員会を設置します。その後、本賞は審査委員会による選考が行われ、理事会の承認を得て決定されます。

今大会が第3回目となる「優秀発表賞」の実施にあたり、どうぞ大会参加会員各位のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

（注）

発表者が応募時に以下のいずれかに該当する場合、受賞資格を有するものとする。

- ・大学院修士課程もしくは大学院博士課程に在学中である。
- ・修士課程修了後 10 年以内である。

（複数の修士課程を修了した場合は、最後に修了した修士課程が対象）。

- ・最終学歴が学部卒業の場合は、卒業後 12 年以内である。

修了後の期間は、修了・卒業月の末日を修了日として起算する。例えば、大学院修士課程修了者で、3月修了の場合は、3月31日を修了日として、10年後の3月31日までが受賞資格を有する期間とする。

異文化間教育学会
理事長 加賀美常美代

研究発表プログラム

個人発表

6月7日(土) 15:00-18:00 会場①(1F S105 教室)、会場②(3F S301 教室)、
会場③(3F S302 教室)、会場④(3F S303 教室)、
会場⑤(3F S308 教室)、会場⑥(3F S309 教室)、
会場⑦(4F S401 教室)、会場⑧(4F S402 教室)、
会場⑨(4F S403 教室)、会場⑩(4F S404 教室)、
会場⑪(4F S405 教室)

6月8日(日) 13:30-16:30 会場⑫(3F S301 教室)、会場⑬(3F S303 教室)、
会場⑭(3F S308 教室)、会場⑮(3F S309 教室)

共同発表

6月8日(日) 13:30-16:30 会場①(3F S302 教室)、会場②(4F S403 教室)、
会場③(4F S404 教室)、会場④(4F S405 教室)

ケース/パネル発表

6月8日(日) 13:30-16:30 会場①(4F S401 教室)、会場②(4F S402 教室)

ポスターセッション

6月7日(土) 13:00-14:00 発表番号1~8(5F S503 教室)、
発表番号9~16(5F S504 教室)

在籍時間 13:00-14:00

6月8日(日) 12:30-15:30 発表番号1~8(5F S503 教室)、
発表番号9~16(5F S504 教室)

在籍時間 12:50-13:30(発表者の都合により不在の場合もあります。)

個人発表 第①会場 1F S105 教室 (6月7日(土))

司会：内田 千春 (共栄大学)

中井 好男 (大阪大学)

- 15:00-15:30 滞日中国人労働者のアイデンティティの構築過程
中井 好男 (大阪大学)
- 15:30-16:00 外国につながる子どもたちのハイブリッドな自己形成 –言語習得と自己形成の関係性に着目して–
成田 悠莉野 (横浜国立大学大学院教育学研究科)
- 16:00-16:30 文化的アイデンティティ間の対話的關係 –かつての海外帰国児童生徒に対するインタビューから3年後の姿を捉える–
黒羽 カテリーナ (神戸大学大学院人間発達環境学研究科)
- 16:30-17:00 海外フィールドワークにおける学生の i-positions の変化 –対話的自己理論の観点から–
岸 磨貴子 (明治大学)
- 17:00-17:30 異文化間で形成される多文化教師教育者ナラティブの分析 –日本の文化状況になじむ多文化教師教育をめざして–
内田 千春 (共栄大学)
- 17:30-18:00 異文化適応と人間的成長
鈴木 京子 (日本大学、成蹊大学、首都大学東京)

個人発表 第②会場 3F S301 教室 (6月7日(土))

司会：塚田 英恵 (ブリティッシュ・コロンビア大学)

宮本 美能 (東北大学)

- 15:00-15:30 高校交換留学経験の大学生生活における活用 –活用タイプの検討を中心に–
岩本 綾 (慶應義塾大学大学院・日本学術振興会特別研究員)
- 15:30-16:00 大学の国際化における想像の共同体としての「国際コミュニティ」の形成 –矛盾と教育的可能性–
塚田 英恵 (ブリティッシュ・コロンビア大学)
- 16:00-16:30 「グローバル化」する授業と教師の役割 –留学生・日本人学生向け授業を事例として–
吉田 裕美 (岡山大学)
- 16:30-17:00 留学生と日本人学生の共生 –共修授業を双方の関係性構築に活用する方策–
宮本 美能 (東北大学)

個人発表 第③会場 3F S302 教室 (6月7日(土))

司会：加藤 優子 (仁愛大学)

久保田 真弓 (関西大学)

- 15:00-15:30 PAC 分析で抽出した海外視察体験の諸相
久保田 真弓 (関西大学)
- 15:30-16:00 短期海外研修から参加者は何を学んでいるのか -異文化コミュニケーションの観点から-
藪田 由己子 (清泉女学院短期大学)
- 16:00-16:30 短期海外体験プログラムに自信感を向上させる効果があるのか -2つの異なるプログラム、属性による比較-
仲野 友子 (国際教育交換協議会(CIEE)日本代表部)
- 16:30-17:00 留学によって育まれるグローバル人材の要素についての考察
加藤 優子 (仁愛大学)
- 17:00-17:30 短期留学プログラムにおける準備教育の意義 -立教大学のプログラムを事例として-
小林 美文 (立教大学 国際センター)
- 17:30-18:00 ニュージーランド英語研修生が語る異文化適応に必要な事前教育について-短期留学に必要な研修についての調査から-
大味 潤 (尚美学園大学)

個人発表 第④会場 3F S303 教室 (6月7日(土))

司会：藤田 恵津子 (鳥取環境大学)

佐藤 千瀬 (聖学院大学)

- 15:00-15:30 乳幼児の差異と共通性の気付きの変化 -親子によるグローバル教育教材の使用を通して-
佐藤 千瀬 (聖学院大学)
- 15:30-16:00 ラオス・ベトナム定住難民の「文化継承教室」を通じた多文化共生教育の試み -双方向の学びに注目して-
乾 美紀 (兵庫県立大学)
- 16:00-16:30 排除と共生の葛藤に学ぶ教育実践 -ドイツにおける異文化間教育論による理論的位置づけの試み-
伊藤 亜希子 (福岡大学)
- 16:30-17:00 外国につながる児童に対する教育の現状と課題 -横浜市の公立小学校の取り組みから-
市川 章子 (横浜国立大学大学院教育学研究科)
- 17:00-17:30 臨床心理士による外国人児童生徒への心理臨床的援助プログラム -いじめ予防と対応-
藤田 恵津子 (鳥取環境大学)
- 17:30-18:00 幼少期における異文化間教育 -「キンダーヴェルテン」プロジェクトの理論的構造に着目して-
前村 絵理 (お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科)

個人発表 第⑤会場 3F S308 教室 (6月7日(土))

司会：花井 理香 (関西学院大学大学院研究員)

劉 郷英 (福山市立大学教育学部)

- 15:00-15:30 **カナダ居住日本人母の子どもとの相互行為によることば育て**
秋山 幸 (早稲田大学大学院博士後期課程)
- 15:30-16:00 **乳幼児期からの「母語」教育方法に関する検討 ー在日中国人家庭の実践を中心にー**
劉 郷英 (福山市立大学教育学部)
- 16:00-16:30 **トポフィリア：ことばの教育への新たなアプローチ ー海外養子として海を渡った経験の物語よりー**
鄭 京姫 (早稲田大学日本語教育研究センター)
- 16:30-17:00 **日韓国際結婚家庭の言語選択 ー韓国人母の韓国語の継承を中心にー**
花井 理香 (関西学院大学大学院研究員)
- 17:00-17:30 **母語教育からコミュニティ言語教育へ ーメルボルンX中国語補習学校での調査をもとにー**
趙 衛国 (中国山東師範大学)

個人発表 第⑥会場 3F S309 教室 (6月7日(土))

司会：加賀美 常美代 (お茶の水女子大学)

小澤 理恵子 (山梨大学)

- 15:00-15:30 **韓国における「結婚移住女性」のスティグマの自覚と対処方法**
具 美善 (一橋大学大学院言語社会研究科)
- 15:30-16:00 **定時制高校教育の異文化間教育からの捉え直しに関する研究 ー群馬県立X高校を事例としてー**
堀越 貴子 (明治大学大学院国際日本学研究科修士課程)
- 16:00-16:30 **台湾と日本の給食指導から見る食育文化 ー食のマイノリティ者に焦点をあててー**
王 舜賢 (同志社女子大学大学院国際社会システム研究科)

個人発表 第⑦会場 4F S401 教室 (6月7日(土))

司会：鎌田 美千子 (宇都宮大学)

清田 淳子 (立命館大学)

- 15:00-15:30 地域の母語支援者による教科学習支援の分析 - 「探索的な母語支援」の観点から -
清田 淳子 (立命館大学)
- 15:30-16:00 外国人児童の学習及び行動の評価と認知力との関連
近田 由紀子 (大阪大学大学院 連合小児発達学研究所)
- 16:00-16:30 JSL 児童生徒への学習支援を目的としたリライトにおける背景知識の扱いとその課題
- 大学生・教員を対象とした教材「リライト作成タスク」の試案 -
鎌田 美千子 (宇都宮大学)
- 16:30-17:00 日本語学習のためのオリジナルアニメをどのように開発したか - 「教育内容」より
「面白さ」を重視して -
矢崎 満夫 (静岡大学教職大学院)
- 17:00-17:30 日本語指導が必要な児童・生徒と日本の学校 - 中国人児童・生徒を中心に -
白 雪花 (東京女学館大学)

個人発表 第⑧会場 4F S402 教室 (6月7日(土))

司会：見世 千賀子 (東京学芸大学)

野呂 博子 (ビクトリア大学)

- 15:00-15:30 表現活動は、地域コミュニティに何をもちたらずか - 親子日本語サークルの実践から
福村 真紀子 (早稲田大学大学院博士後期課程)
- 15:30-16:00 NPO と大学との連携・協働による地域日本語教育の在り方 - 札幌市の事例 -
宇山 小夜 (北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院)
- 16:00-16:30 多文化カナダの「架け橋」たち - 日本語を仲介に広がるニッケイコミュニティー
野呂 博子 (ビクトリア大学)
- 16:30-17:00 年少者日本語教育における協働映像制作の導入の意義 - 境界化された学齢超過の
ニューカマーの青年と私の協働活動の途中報告 -
岩瀬 正幸 (ブリティッシュコロンビア大学教育学部教育研究科博士課程)

個人発表 第⑨会場 4F S403 教室 (6月7日(土))

司会：山本 雅代 (関西学院大学)

岡村 郁子 (首都大学東京)

- 15:00-15:30 スペイン語母語児童生徒の二言語読書力の発達
櫻井 千穂 (大阪大学)
- 15:30-16:00 神戸中華同文学校におけるバイリンガル教育の方法と実践をめぐる一考察
Yuan. 馬場 裕子 (立命館大学大学院)
- 16:00-16:30 帰国児童のリテラシー能力保持に関わる社会的要因
谷口 ジョイ (静岡英和学院大学)
- 16:30-17:00 在日コリアンオールドカマーをめぐる日韓社会事情と民族言語使用及び学習のモチベーションとの関連性
梁 熙貞 (関西学院大学大学院研究員)
- 17:00-17:30 コーダのジェスチャーに関するケーススタディー - ろう文化と聴文化のバイカルチュラルとしてのコーダー
平 英司 (関西学院大学)

個人発表 第⑩会場 4F S404 教室 (6月7日(土))

司会：稲田 素子 (立教大学)

田渕 五十生 (福山市立大学)

- 15:00-15:30 学齢期を過ぎた青年の高校入試支援と方略 - 「Iちゃんプロジェクト」の事例報告と課題-
田渕 五十生 (福山市立大学)
- 15:30-16:00 多文化社会における高校から大学への移行支援 - 米国ニューヨーク市における実践事例から -
住野 満稲子 (東京大学大学院修士課程)
- 16:00-16:30 越境する日本人家族の進路選択をめぐるコンフリクト - グアム移住者二世世代の「日本への帰還」にまつわる語りに着目して-
芝野 淳一 (大阪大学大学院)

個人発表 第⑪会場 4F S405 教室 (6月7日(土))

司会：山ノ内 裕子（関西大学）

南浦 涼介（山口大学）

- 15:00—15:30 **在日ブラジル人家族の進路選択と教育戦略** —日本で高等教育を終了した日系三世青年とその母親のライフヒストリーから—
山ノ内 裕子（関西大学）
- 15:30—16:00 **外国人散在地域における在日中国人ニューカマー家族の教育戦略** —広島県福山市を事例に—
劉 昊（早稲田大学院人間科学研究科）
- 16:00—16:30 **K県におけるペルー人児童生徒と保護者の教育に関する一考察**
松田 デレク（上智大学大学院総合人間研究科教育学専攻）
- 16:30—17:00 **Transnational family strategies and education among Peruvian families in Japan**
中村 パトリシア（Pontificia Universidad Católica del Perú（ペルー カトリカ大学））
- 17:00—17:30 **ニューカマーの子どもたちの進路選択と将来の展望** —ブラジル・ペルーにルーツを持つ子どもたちの事例調査から—
オチャンテ 村井 ロサ メルセデス（NPO 法人 Mixed Roots x ユース x ネット★こんぺいとう）

個人発表 第⑫会場 3F S301 教室 (6月8日(日))

司会：小野 由美子 (鳴門教育大学)

中川 典子 (流通科学大学)

- 13:30-14:00 **台湾出身の元留学生が日本企業で活躍する条件に関する研究**
朱 如霞 (明治大学大学院 国際日本学研究科修士課程)
- 14:00-14:30 **元留学生外国人社員の組織社会化に関する研究 -属性の違いによる適応プロセスの違いに注目して-**
島田 徳子 (東京大学)
- 14:30-15:00 **留学生の就職支援のあり方について -内定をもらった中国人留学生へのインタビューを通して-**
郭 静 (龍谷大学)
- 15:00-15:30 **上海における日本人海外駐在員妻の異文化適応のパターン -日本人集住マンションを事例に-**
叶 尤奇 (明治大学大学院)
- 15:30-16:00 **青年海外協力隊に参加した現職教員のケースヒストリー**
小野 由美子 (鳴門教育大学)
- 16:00-16:30 **日本人学生(若者)の内向き志向再考**
太田 浩 (一橋大学)

個人発表 第⑬会場 3F S303 教室 (6月8日(日))

司会：塚本 美恵子 (駿河台大学)

田中 共子 (岡山大学社会文化科学研究科)

- 13:30-14:00 **国際ボランティア・プロジェクトにおける参加モードの変容 -第二言語を使った意味交渉の分析から-**
出口 朋美 (近畿大学)
- 14:00-14:30 **異文化間教育の導入的エクササイズとしての認知地図**
田中 共子 (岡山大学社会文化科学研究科)
- 14:30-15:00 **シナリオ執筆による異文化コミュニケーション -シナリオ・センター講師との連携による実践-**
脇田 里子 (同志社大学 グローバル・コミュニケーション学部)
- 15:00-15:30 **ブラジル人学校の子どもたちは映像をどう読み取っているか -「最も印象に残ったシーン」の分析から-**
塚本 美恵子 (駿河台大学)
- 15:30-16:00 **「移動する子ども」を対象とした中学校社会科カリキュラム/教材作り -アメリカンスクール・イン・オキナワでの実践を通して-**
北上田 源 (琉球大学非常勤)

個人発表 第⑭会場 3F S308 教室 (6月8日(日))

司会：宇土 泰寛 (椋山女学園大学)

齋藤 眞宏 (旭川大学)

- 13:30-14:00 異文化への気付きを目的とした外国語活動 —英語変種に焦点を当てた授業実践—
加藤 あや美 (名古屋短期大学)
- 14:00-14:30 メディアを活用した多文化共生の試み —NPOの活動から—
辻野 理花 (甲南大学)
- 14:30-15:00 東日本大震災被災地におけるサービス・ラーニングと異文化間理解(その3) —仮設住宅におけるサロン活動を通じた学生たちの学び—
齋藤 眞宏 (旭川大学)
- 15:00-15:30 イタリアの公共図書館とインターカルチュラル教育 —ボローニャ市カーザ・ディ・カオウラ図書館のケーススタディー—
高橋 春菜 (東北大学大学院)
- 15:30-16:00 「多文化」都市再訪 —大都市におけるフィールド／ホームワークから—
渡辺 紀子 (京都大学人文科学研究所)
- 16:00-16:30 地球的課題に取り組む大陸間教育活動 —日本・オーストラリア・ブルキナファソ・フランスの交流プロジェクトに向けて—
宇土 泰寛 (椋山女学園大学)

個人発表 第⑮会場 3F S309 教室 (6月8日(日))

司会：工藤 和宏 (獨協大学)

山名 裕子 (秋田大学教育文化学部)

- 13:30-14:00 異文化教育による看護科学生の異文化受容度の向上と今後の課題
阿部 祐子 (国際教養大学国際教養学部)
- 14:00-14:30 幼児教育の日中比較 —教員と大学生の教育観の違い—
山名 裕子 (秋田大学教育文化学部)
- 14:30-15:00 異文化間1対1コミュニケーション授業の2013年度実施報告と検証 —日豪間の小中高18校によるライブ動画での1対1異文化間会話授業の実践—
奥村 聡 (一般社団法人CCCプロジェクト 代表理事)
- 15:00-15:30 日本所在韓国学校生徒の歴史認識
李 スルビ (東京大学大学院 教育学研究科・博士課程)
- 15:30-16:00 異文化間教育における実践的な手法についての考察
工藤 和宏 (獨協大学)

共同発表 第①会場 3F S302 教室 (6月8日(日))

司会：横田 雅弘 (明治大学)

結城 恵 (群馬大学)

13:30-14:30 スタディーツアーにおける協働学習～日独の大学生・中高校生による異文化間の学び

尾崎 司 (東京家政大学短期大学部)

Lambrecht Matthias (東京家政大学)

14:30-15:30 群馬県内の外国人留学生の就職・生活の「場」の選択に関する一考察

申 惠媛 (東京大学)

中野 啓太 (東京大学)

結城 恵 (群馬大学)

共同発表 第②会場 4F S403 教室 (6月8日(日))

司会：山田 礼子 (同志社大学)

久保田 賢一 (関西大学)

13:30-14:30 越境的な学習の可能性と課題

ー大学における海外での社会貢献活動を事例としてー

久保田 賢一 (関西大学)

山本 良太 (関西大学大学院)

中川 歩香 (関西大学大学院)

大福 聡平 (関西大学大学院)

岸 磨貴子 (明治大学)

14:30-16:10 「日本」を語る、学ぶ、発信する

ー千葉大学国際教育センターにおける協働学習の仕掛けづくりー

吉野 文 (千葉大学国際教育センター)

西住 奏子 (千葉大学国際教育センター)

小林 聡子 (千葉大学国際教育センター)

ガイタニディス ヤニス (千葉大学国際教育センター)

共同発表 第③会場 4F S404 教室 (6月8日(日))

司会： 山本 雅代 (関西学院大学)

恒吉 僚子 (東京大学)

13:30-14:30 イマージョン教育における英語学習動機と異文化理解

久津木 文 (神戸松蔭女子学院大学)

田中 佑美 (広島経済大学)

**14:30-15:30 英語による学部講義での「グローバルリーダー」資質育成に関する考察
ー国立文系学部の講義事例よりー**

恒吉 僚子 (東京大学)

井田 頼子 (東京大学大学院)

共同発表 第④会場 4F S405 教室 (6月8日(日))

司会： 馬淵 仁 (大阪女学院大学)

齋藤 ひろみ (東京学芸大学教育学部)

**13:30-14:30 ニューカマーの子どもたちのアイデンティティ形成時における宗教の影響について
ー三重県伊賀市に住むニューカマーの事例ー**

オチャンテ カルロス (環太平洋大学)

オチャンテ 村井 ロサ メルセデス(NPO 法人 Mixed Roots x ユース x ネット★こんぺいとう)

14:30-15:30 外国につながる子どもたちの就学前支援を考える ー保育園での調査からー

西山 幸子 (愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルーム)

川口 直巳 (愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルーム)

鈴木 絵莉 (愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルーム)

15:30-16:30 日本生育外国人児童の文章構成力の発達に関する研究 ー出来事作文の分析を通してー

齋藤 ひろみ (東京学芸大学)

内田 紀子 (茨城大学)

鳶田 陽子 (国立国語研究所)

菅原 雅枝 (東京学芸大学)

ケース／パネル発表 第①会場 4F S401 教室 (6月8日(日))

13:30—15:00 独日国際児のバイリテラシーの形成過程(3) —課題作文の横断的分析を中心に—

司会者	高橋 登	(大阪教育大学)
共同発表者	柴山 真琴	(大妻女子大学)
共同発表者	池上 摩希子	(早稲田大学)
共同発表者	ビアルケ(當山) 千咲	(東京横浜独逸学園)
ディスカッサント	石井 恵理子	(東京女子大学)

**15:00—16:30 国際結婚家庭(国際家族)における日系国際児への言語および宗教の継承
—その要因とメカニズム—**

司会者, 共同発表者	鈴木 一代	(埼玉学園大学)
共同発表者	竹下 修子	(愛知学院大学)
共同発表者	新田 文輝	(吉備国際大学)
ディスカッサント	手塚 千鶴子	(慶應義塾大学)

ケース／パネル発表 第②会場 4F S402 教室 (6月8日(日))

13:30—15:00 多文化・多言語環境の子どもの発達と学習支援

司会者, 共同発表者	塘 利枝子	(同志社女子大学)
共同発表者	稲田 素子	(立教大学)
共同発表者	近田 由紀子	(大阪大学大学院)
ディスカッサント	小澤 理恵子	(山梨大学)

15:00—16:30 外国人散在地域における「特別の教育課程」の編成・実施にむけて

司会者, 共同発表者	土屋 千尋	(帝京大学)
共同発表者	内海 由美子	(山形大学)
共同発表者	中川 祐治	(福島大学)
共同発表者	松岡 洋子	(岩手大学)
ディスカッサント	足立 祐子	(新潟大学)

ポスター発表 5F S503 教室 (6月7日(土) 13:00-14:00) 在籍時間
(6月8日(日) 12:50-13:30) 在籍時間

※ポスターは大会期間中掲示されています。6月8日(日)の在籍時間については発表者の都合で不在の場合もあります。

1. 多文化社会におけるコミュニティ構築に向けた仕組みと人材

松岡 洋子 (岩手大学)

足立 祐子 (新潟大学)

2. 海外サービスラーニング —教員の関与とストラテジー—

山下 美樹 (麗澤大学)

3. 紛争経験国の学生が抱く紛争認識に関する探索的研究 —多国間協働による平和構築・紛争予防教育実践の評価へ向けて—

宮城 徹 (東京外国語大学)

福田 彩 (東京外国語大学)

池田 満 (国際基督教大学)

4. 多文化共生の実現に貢献する異文化理解の教育方法：新たな可能性の模索

沼田 潤 (同志社大学)

5. 韓国人の国民意識と日本イメージの年代間比較

加賀美 常美代 (お茶の水女子大学)

小松 翠 (お茶の水女子大学大学院博士後期課程)

岡村 佳代 (お茶の水女子大学大学院博士後期課程)

朴 エスター (韓国檀国大学大学院非常勤講師)

6. 多言語多文化環境での低年齢児の言語教育に関する家庭の意識と行動 —北米地域の日本人保護者を例に—

稲田 素子 (立教大学)

7. World Englishesにふれる —短期語学研修プログラムに期待される効果について—

澁谷 由紀 (神田外語大学国際コミュニケーション学科)

8. 中国人中学生の情動知能に関する心理学的研究 —一人っ子の特徴に焦点を当てて—

葛 芳 (同志社大学社会学研究科)

ポスター発表 5F S504 教室 (6月7日(土) 13:00-14:00) 在籍時間
(6月8日(日) 12:50-13:30) 在籍時間

※ポスターは大会期間中掲示されています。6月8日(日)の在籍時間については発表者の都合で不在の場合もあります。

9. 子どものことばの学びをめぐり交錯する「まなざし」と授業実践への模索 —複数言語環境で成長する児童Hの事例をもとに—

中野 千野(早稲田大学大学院日本語教育研究科博士課程)

10. 多文化教員に関する学部教員養成や現職研修のためのリソース

河野 俊之 (横浜国立大学)

浜田 麻里 (京都教育大学)

齋藤 ひろみ (東京学芸大学)

川口 直巳 (愛知教育大学)

金田 智子 (学習院大学)

橋本 ゆかり (横浜国立大学)

市瀬 智紀 (宮城教育大学)

11. 複言語サポーターの「支援の語り」にみる「外国人」の位置づけ

徳井 厚子 (信州大学)

12. 「新台湾之子」の生活文化に関するインタビュー調査

黄 琬茜 (同志社大学社会学研究科)

13. 「生活のための日本語」授業の探求 —研修システムの構築をめざして—

金田 智子 (学習院大学)

中上 亜樹 (国士舘大学)

須賀 和香子 (国立国語研究所)

14. 日本語の教室における劇づくり —日本語授業ボランティアの視点から—

中山 由佳 (早稲田大学)

15. 欧米出身在日留学生の食における文化変容に関する探索的検討

中野 祥子 (岡山大学)

田中 共子 (岡山大学)

高濱 愛 (一橋大学)

16. 長期的観点からの日本留学 —インドネシア人元留学生の視点と留学経験の多様性を通して考える—

有川 友子 (大阪大学)

第 35 回大会 賛助団体ご芳名

明石書店

アカデミア出版会

学文社

風間書房

くろしお出版

勁草書房

ココ出版

ナカニシヤ出版

博報児童教育振興会

ベネッセコーポレーション

(以上、五十音順)

本大会を開催するにあたり、上記の団体より多大なご支援をいただきました。ここにご芳名を記して、感謝の意を表します。

異文化間教育学会 第 35 回大会準備委員会
委員長 塘 利枝子

ナカニシヤ出版

TEL 075-723-0111 〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15
FAX 075-723-0095 http://www.nakanishiya.co.jp/ (税抜価格)

アジアの教科書に見る子ども
塘利枝子 編 / 出羽孝行・スネット 他著
アジア各国の教科書に描かれた子ども
の姿から、理想の家族と子ども像、
性役割観の違いを解明。4300円

大学学びのことはじめ
〔3訂〕◎初年次セミナーワークブック
佐藤智明・矢島 彰・山本明志 編
書込み、切り取り、提出！ 高大接続
の初年次教育に大好評。1900円

Excelによるアンケート調査の第一歩 辻義人 著
具体的な事例を通して出力結果の読
み取り方を重視した、初学者のため
の実践的入門テキスト。2000円

**ファシリテーター
行動指南書**
◎意味ある場づくりのために
中野民夫 監修 / 三田地真実 著
成果をあげる極意とは。2000円

**エスノメソドロジー
への招待** ◎言語・社会・相互行為
D・ウランシス / S・ヘスター 著
エスノメソドロジー研究の実践方法
を分かりやすく解説。3000円

**統計データで読み解く
移動する人々と日本社会**
◎ライフサイクルの視点から情報分析を学ぶ
川村千鶴子 編著
多文化社会を考える。2200円

**変容するイスラームの
学びの文化**
◎マレーシア・ムスリム社会と近代学校教育
久志本裕子 著
近代化と伝統のはざまで。8000円

大学教育
◎越境の説明をはぐくむ心理学
富田英司・田島充士 編著
理論的／実証的な科学的研究による
大学教育改善への提言。3700円

**ピアチニグ
トレインニング**
◎学生による学生の支援へ
谷川裕稔・石毛 弓 編著
学生同士の学びのために。2200円

**「今ここ」を生きる
人間関係** 杉山郁子 編
人間関係を体験し、学び、編集しな
おし、新たな対人関係 組織・コミュニ
ティをつくりだす。2200円

つながれない社会
◎グループ・ダイナミックスの3つの眼
日比野愛子・渡部 幹・石井敬子 著
社会的交換理論 文化心理学、社会構
成主義の視点から考察。1800円

**データで見る
東アジアの健康と社会**
◎東アジア社会調査による日韓中台の比較3
岩井紀子・埴淵知哉 編
EASS2010による比較。4800円

多文化共生論

多様性理解のためのヒントとレッスン

加賀美常美代 編著 ◎本体2400円(＋税)

多文化化が進む日本において、ホスト社会の人々と多様性のある人々の双方が、居心地良く共に生きるために必要なものは何か。問題解決へ向かう新たな協働活動を生み出すための視点と思考を、マイノリティ支援の豊富な事例を踏まえて概説。

■内容構成■

- 第1章 多文化共生とは何か
——コミュニティ心理学的視座から多様性を考える[加賀美常美代]
- 第2章 日本の外国人の抱える問題[田淵五十生]
- 第3章 中国帰国者の抱える問題
——1世、2世、3世に求められる支援とは[島崎美穂]
- 第4章 地域社会と多文化共生
——新宿の小学校事例を中心として[善元幸夫]
- 第5章 外国につながる子どもたちの困難・サポート・対処行動からみる
現状[岡村佳代]
- 第6章 地域日本語教育とコーディネーターの重要性
——共生社会の構築へ向けて[野山 広]
- 第7章 国際結婚家族で母語を身につけるバイリンガル
——社会言語学と言語発達視点から捉える[藤田ラウンド幸世]
- 第8章 国際結婚の解消——身近な法律問題[吉野 晶]
- 第9章 難民認定申請者(Asylum seekers)の生活とこころ[野田文隆]
- 第10章 多文化共生と障害の文化モデル
——一人ひとりへの合理的配慮[長瀬 修]
- 第11章 企業と研修生
——共生に向けた日本語支援の視点から[守谷智美]
- 第12章 大学コミュニティにおける多文化共生[加賀美常美代・小松 翠]
- 第13章 海外の日本人駐在家族と移動する子どもたち[岡村 郁子]
- 第14章 韓国における多文化化する家族とその子どもたち[朴エスター]

アジア諸国の子ども・若者は 日本をどのようにみているか

韓国・台湾における歴史・文化・生活にみる日本イメージ
加賀美常美代 編著 ◎本体2400円(＋税)

韓国と台湾の小学生から大学生までを対象に、日本に対してどのようなイメージをもっているかを様々な手法で調査。食・大衆文化・歴史認識などをカテゴリ毎に肯定・否定かに分類。肯定的な対人関係を作るための異文化間教育プログラムの提言をおこなう。

外国人児童生徒のための社会科教育

文化と文化の間を能動的に生きる子どもを授業で育てるために
南浦涼介 著 ◎本体4800円(＋税)

これまでの単一言語・文化観で成立している授業は、外国人児童生徒に明確な対応をとれていない。授業デザインの現状と課題を考察し、教育現場における彼等に対する著者の「統合的アプローチ」を指す授業の実践を通してその場に根ざした授業づくりの理論構築を試みる。

まんが クラスメイトは外国人 入門編

はじめて学ぶ多文化共生
「外国につながる子どもたちの物語」編集委員会 編 みなみ ななみ まんが
◎本体1200円(＋税)

期待と不安を胸に中学校に進学した翔と歩夢。ブラジルや中国など様々な国にルーツを持つ友達と出会い、彼・彼女と共に、時には泣き、笑い、悩み、考えながら、少しずつ成長していきます。さあ、あなたも二人と一緒に、新しい中学校生活を送ってみよう。

人権と多文化共生の高校

外国につながる生徒たちと鶴見総合高校の実践
坪谷美歌子、小林宏美 編著 ◎本体2200円(＋税)

前身の寛政高校時代から長きにわたる外国につながる生徒を受け入れ、豊富な経験を持ち合わせる鶴見総合高校。外国人支援のみならず国際理解など全校的な取り組みが行われている。その全国的にもユニークな学校現場における実践の共有化を目指す。

地球時代の日本の多文化共生政策

南北アメリカ日系社会との連携を目指して
浅香幸枝 著 ◎本体2600円(＋税)

明治時代の日本人の海外移住開始から約150年。南北アメリカはその大きな受け皿となり、現在では日系人が各国で新たな世代を築いている。彼らが受入先の国に適応していく過程から、日本における外国人受入の方策を模索し、新たな多文化共生のあり方を考える。

明石書店

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5
http://www.akashi.co.jp 振替00100-7-24505 *目録送呈 *価格税別

TEL.03-5818-1171 FAX.03-5818-1174

松尾知明 編著
A5判上製272頁 本体3400円 ISBN978-4-326-25090-5

多文化教育をデザインする

移民時代のモデル構築
グローバル化が進展し「移民時代」の到来が現実味を帯びるなか、どのような多文化教育を設計していけばよいのかを具体的に検討する。



馬淵 仁 編著
A5判上製240頁 本体2800円 ISBN978-4-326-25089-1

「多文化共生」は可能か

教育における挑戦
社会における「多文化共生」が謳われて久しいが、その実現は本当に可能なのか。論点を整理し、課題解決のための具体的な道筋を探る。



園山大祐 編著
A5判上製256頁 本体2900円 ISBN978-4-326-25073-8

学校選択のパラドックス

フランス学区制と教育の公正
「学校選択」の結果、フランスでは何が起こったのか。階層・地域間格差・社会関係資本・親の教育戦略等を視野に、日仏の研究者が分析する。



ガート・ビースタ / 上野正道・藤井佳世・中村(新井)清二 訳
四六判上製292頁 本体2200円 ISBN978-4-326-25094-1

民主主義を学習する

教育・生涯学習・シティズンシップ
民主主義の学習とは、政治における主体化である。民主主義を学校や社会でいかに学習するのか、理論的・歴史的・政策的に考察する。



金井香里
A5判上製280頁 本体4000円 ISBN978-4-326-25074-5

ニューカマーの子どものいる教室

教師の認知と思考
外国人の子どものいる教育現場で、教師はいかなる葛藤を経験しているのか。実践過程における教師の対処方略を、参与観察により詳細に検証する。



佐久間孝正
四六判上製224頁 本体2200円 ISBN978-4-326-25897-6

外国人の子どもの教育問題

政府内懇談会における提言
いまこの日本で、「学び」から遠ざけられている子どもたちがいる。ニューカマーの児童の不就学の実態と、問題解決に向けた提言。



佐久間孝正
四六判上製344頁 予価2200円 ISBN978-4-326-25905-8

多文化教育の充実に向けて

イギリスの経験、これからの日本
多文化・多民族国家のイギリスの現実を見据えつつ、日本における外国人児童生徒に対する教育施策の変化と、今後の課題を検討する。

※2014年5月刊



<http://www.keisosho.co.jp>

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 TEL 03-3814-6861 FAX 03-3814-6854

*表示価格には消費税が含まれておりません。

無名大学を 優良大学にする力

一ある大学の変革物語
ジョージ・ケラー 著
堀江 未来 監訳

●136頁
本体1600円



全米の大学の中でトップ300の中に位置づけられるほどの優良大学へ変貌を遂げたイーロン大学。総合的な観点から、大学の軌跡、経験などをはじめ、優良大学の地位と競争力を得て新たに抱える問題をもしるす。

大学の国際化と 日本人学生の国際志向性

横田雅弘・小林明 編著

●216頁
本体2000円



日本、米国、韓国の学生国際交流政策について、外国人留学生の受入れと自国学生の送り出しの双方から検討。世界の情勢を背景知識とし日本の大学の国際化を学生国際交流の観点から把握することをめざす。

〈多文化共生〉8つの質問

一子どもたちが豊かに生きる2050年の日本

佐藤友則 著

●176頁
本体2000円



現在の日本の情勢、子どもたちの状況を念頭に、ヘイト・デモの対象とされることの多い「日本に住んでいる外国人のびと」と、私たち日本人とがお互いWinWinの関係で作り上げる「多文化共生」社会について述べる。

早稲田教育叢書 34 基礎から学ぶ比較教育学

長島啓記 編著

●242頁
本体2300円



日本を含む各国の教育について取り上げ、比較、検討。国や地域ということは背景に置き、「イシュー」(各国が解決を迫られている課題や論点)を前面にだして比較することで、問題群ごとに各国の課題を理解しやすくなった。

途上国における基礎教育支援

上巻 一国際的潮流と日本の援助

小川啓一・西村幹子 編著 262頁

下巻 一国際的なアプローチと実践

廣里恭史・北村友人 編著 270頁

●本体 各2800円



学校学力から生涯学力へ

前田耕司・佐藤千津 編著

●本体1700円 160頁

生涯学習と多文化・多民族教育の研究

岩崎正吾 編著

●本体1800円 160頁

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1
<http://www.gakubunsha.com>

学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012
E-mail: cigyoo@gakubunsha.com

異文化間教育学会

異文化間教育

◆バックナンバーのご案内(分冊でも全冊でもご購入できます)

- 1 特集＝異文化間教育と教育の国際化 本体2300円＋税
- 2 特集＝異文化間教育と国際理解 本体2300円＋税
- 3 特集＝異文化間教育とコミュニケーション 本体2300円＋税
- 4 特集＝外国語としての日本語の教育 本体2300円＋税
- 5 特集＝在日留学生と異文化接触 本体2300円＋税
- 6 特集＝異文化接触と教育摩擦 本体2500円＋税
- 7 特集＝多文化教育と外国人教育 本体2500円＋税
- 8 特集＝異文化理解と言語教育 本体2500円＋税
- 9 特集＝異文化接触とアイデンティティ 本体2500円＋税
- 10 特集＝異文化間教育学の可能性—学会十五年の回顧と展望 本体2500円＋税
- 11 特集＝異文化間リテラシー 本体2500円＋税
- 12 特集＝異文化間教育の実践的展開—その理論と方法 本体2500円＋税
- 13 特集＝留学生支援システムの最前線 本体2500円＋税
- 14 特集＝小学校の英語教育—異文化間教育からの提言 本体2500円＋税
- 15 特集＝異文化間トランス (20周年記念) 本体3000円＋税
- 16 特集＝異文化受容の転機 本体2500円＋税
- 17 特集＝「総合的な学習」と異文化間教育 本体2000円＋税
- 18 特集＝地域ネットワークと異文化間教育 本体2000円＋税
- 19 特集＝越境のもたらすもの 本体2000円＋税
- 20 特集＝異文化間カウンセリングの今日的課題 本体2000円＋税
- 21 特集＝在日外国人教育の現在 本体2000円＋税
- 22 特集＝異文化間教育研究と「日本人性」 本体2000円＋税
- 23 特集＝異文化間教育の現在 本体2000円＋税
- 24 特集＝異文化間教育の語り直し—他者・境界・文節化 本体2000円＋税
- 25 特集＝異文化間教育と教師 本体2000円＋税
- 26 特集＝バイカルチュラル家族—複数の文化と言語が交叉するところ 本体2000円＋税
- 27 特集＝異文化間教育学会25年の回顧と展望 本体2300円＋税
- 28 特集＝地域におけるニューカマー支援と連携—異文化間教育学の視座から 本体2300円＋税
- 29 特集＝異文化間のコミュニケーションを考える 本体2300円＋税
- 30 特集＝多文化共生社会をめざして—異文化間教育の使命 本体2300円＋税
- 31 特集＝生涯を通しての「異文化間教育」 本体2300円＋税

異文化間協働—国際文化学の展開

小林哲也 森 聖雨 太田洋子 編著

四六判376ページ 定価(本体3500円＋税)

まえがき

第一部 国際文化学の展開—異文化をつなぐ関係性

- 1 国際文化学を学ぶ—アイデンティティと学際性をめぐって 小林哲也
- 2 国際文化の学を考える—体系としての確立をめざして 森 聖雨
- 3 国際文化学の源泉を探る—コスモポリタニズムという希望 佃 繁

第二部 文学から文化学へ—異文化間理解

- 1 自然と文化が巡り合う場所—つなぎ目としてのシドニーの庭園 大田垣裕子
- 2 宇宙のリズムへのつながり—児童文学の試み 大角洋子
- 3 文化の衝突を超えて—E.M.フォースター『天使も踏むを恐れるところ』 太田洋子
- 4 条理と不条理の間—ミユエル・スパーク『ブラック・マドンナ』 杉山克枝
- 5 日本文化の多元的認識と「南島」—「ヤポネシア」という視点 西尾宣明

第三部 多文化と相互理解—異文化間交流

- 1 相互理解のコミュニケーション—文化的背景の異なる場 樋口勝也
- 2 国際語としての英語—その功罪 伊達民和
- 3 多文化社会アメリカの葛藤と共生—黒人大学をめぐる 権 瞳
- 4 誤解させる日本という国—説明責任をとらない文化 西道 実

第四部 実践と理論への志向—異文化間協働

- 1 意識変容と協働の学習—海外体験がもたらすものマッセルホワイト、リンダ・ダイアン 松田浩志
- 2 異文化間協働の実践—ネパール研修 関 綾子
- 3 日本語「紹介」の活動—自己の文化の認識から意識の変容へ 亀井慶二
- 4 異文化における教育協力—ミャンマーでの経験をもちに 寺田恭子
- 5 「地域のつながり」と子育て支援—市民と行政による「食育」の協働 森定玲子
- 6 異文化間協働が拓く福祉社会—ボランティア活動は境界を越える 太田洋子

アカデミア出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町1-6 TEL.075-771-7055 FAX.075-771-9595

エンパワーメント評価の原則と実践

D.M.フェッターマン・A.ワンダーズマン 編著 笹尾敏明監訳 3500円

コミュニティのための参加型評価として注目されているエンパワーメント評価の実践事例および10の原則を解説する。コミュニティ活動・介入に携わる関係者必読の手引書。

グローバル化の中のポストコロニアリズム

大熊昭信・庄司宏子 編著 3800円

環太平洋諸国における少数民族や移民の痛切な苦悩の体験から発生した文学的営為を考察。作家の個人的な文化的経験にも関心を注ぎ、問文化主義の可能性を探る。

価値多様化社会における心の教育

西村 正登 著 2500円

リコーナの道徳教育論やアメリカ道徳教育三大潮流を基盤とし、国際的な視野から心の教育の在り方を検討。家庭・学校・地域社会・国際社会の観点から論じている。

感情心理学からの文化接触研究

小柳 志津著 9500円

異文化対人接触ではなぜ文化の違いが問題を引き起こすのか？本書は、コンテキストでの関係性が文化規範への評価や感情の質を決めることを明らかにした好著。

異文化間コミュニケーションにおける相互作用管理方略

佐々木由美著 14000円

文化スキーマ理論に基づき、各文化で獲得した方略スキーマにより、特定の相互作用の方略を選択することについて、実証的検証を試みた研究である。

日系アメリカ人の文学活動の歴史的変遷

水野真理子 著 7500円

1880年代から1980年代までの在米日本人・日系アメリカ人の文学活動の変遷過程を辿り、多様な移民経験の一端を描出。時間軸と個人の内面による重層的な分析を行う。

分断国家の国語教育と在日韓国・朝鮮学校の民族語教育

朴 校熙 著 8000円

異なる国家体制の下、韓国と北朝鮮の国語及び国語教育の乖離ならびに海外公民教育として、両国が在日韓国・朝鮮学校の民族語教育に及ぼした影響について考察。

ブラジル人生徒と日本人教員の異文化間コミュニケーション

西田ひろ子 編著 2800円

日本で就学しているブラジル人生徒を対象に、勉学の際の異文化適応問題をスキーマ理論から分析。教員と父兄のアンケートから生徒が抱える問題解決への道を探る。

社会科教授用図書におけるアイヌ民族関係記述の生成と展開

吉田 正生 著 14000円

アイヌ民族に関わる記述はいつ、なぜ社会科教科書に登場したのか。背景には人々のどのような思いがあったのか。本書は知られざる教育実践史の断面に光をあてた労作。

孤独感に関する社会心理学的研究

諸井 克英 著 10000円

孤独感に関する先行諸研究を整理・検討し、筆者の実証的研究も踏まえながら、孤独感の生起・維持に関する社会心理学的モデルを提起。複雑な現代社会への指針を追求。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

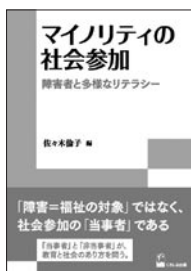
風間書房

(URL) <http://www.kazamashobo.co.jp>
メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp

くろしお出版

マイノリティの社会参加

障害者と多様なリテラシー

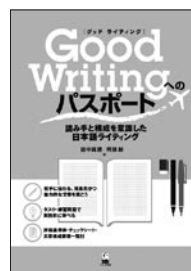


■ 佐々木倫子 [編] / A5判 / ¥2,200+税

障害、性別、年齢、人種、宗教などの少数派である「マイノリティ」の中から「障害」を採りあげ、その世界の多様なリテラシーの視点から、教育と社会のあり方を考える。英語執筆者の原文は、WEBサイトにて配信予定。

Good Writingへのパスポート

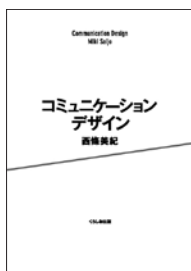
読み手と構成を意識した日本語ライティング



■ 田中真理・阿部新 [著] / B5判 / 予価¥2,200+税

相手に伝わる、効果的かつ魅力的な文章を書けるように、ライティング研究の成果を取り入れた「日本語表現法」テキスト。タスク・練習問題で実践的に学べる。評価基準表・チェックシート・文章構成要素一覧付。

コミュニケーションデザイン

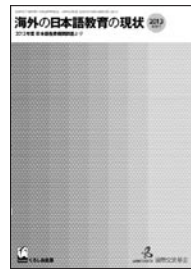


■ 西條美紀 [著] / A5判 / ¥1,800+税

複雑な問題について漠然と話をはじめたのでは解決は図れない。著者が実際に解決を試みようとした事例を中心に、コミュニケーションデザイン、つまり話し合いの設計により、どのように問題解決を図るかを読者と共に考える。

海外の日本語教育の現状

2012年度 日本語教育機関調査より



■ 国際交流基金 / A4判 / ¥2,000+税

世界の日本語学習者数や、国別の日本語教育人口増減など、日本語教育・海外ビジネスに携わる人が知りたい動向を、緻密な分析とともに解説。加工可能な統計資料のエクセルデータ付。概要版(500円+税)、および概要・英語版(500円+税)も発売中。



言語教育実践 イマ×ココ

現場（イマ×ココ）の実践を記す・実践を伝える・実践から学ぶ

1,200 円＋税

創刊準備号 ISBN 978-4-904595-29-9

創刊号 ISBN 978-4-904595-29-9

『イマ×ココ』は、言語教育における実践の共有をめざす年刊雑誌です。現場の実践を丸ごと記し・伝えること、それを共有し、それぞれの眼差しで意味づけることで、実践をより豊かで多様なものに変えていくことができる、という信念の下に生まれました。広く投稿も受け付けます。詳しくは、「イマ×ココ」HP をご覧ください→<http://www.cocopb.com/imacoco/>



にほんごこれだけ！

庵功雄監修

(1) 1,000 円＋税 ISBN 978-4-904595-06-0

(2) 1,200 円＋税 ISBN 978-4-904595-14-5

漢字だいじょうぶ！

生活の中で学ぶ漢字のツボ

トヤマ・ヤボニカ著 中河和子・高畠智美編

1,600 円＋税 ISBN 978-4-904595-40-4



地域日本語教育向け

▽日本語教育学研究 4

異文化コミュニケーション能力を問う

超文化コミュニケーション力をめざして

佐藤慎司・熊谷由理編 3,600 円＋税 ISBN 978-4-904595-46-6

講義理解過程におけるアカデミック・インターアクションに関する実証的研究

留学生の視線行動から考えるグローバル化時代の大学教育

毛利貴美著 4,000 円＋税 ISBN 978-4-904595-44-2

▽日本語教育学の新潮流 5

子どもたちはいつ日本語を学ぶのか

複数言語環境を生きる子どもへの教育

尾関史著 3,600 円＋税 ISBN 978-4-904595-34-3

がっこうのにほんご 絵カード 200

（活動案付き）

村野良子・藤川美徳・豊島教材作成チーム 作成・編集 4,800 円＋税
ISBN 978-4-904595-45-9

日本の小学校に入ってきた、外国につながる子どもたちのための日本語教材です。学校生活で使われる基本的なことばや表現に関する 200 枚の絵カードに活動案小冊子（36 頁）が付いています。

株式会社ココ出版 〒162-0828 東京都新宿区袋町 25-30-107
tel & fax 03-3269-5438 e-mail: info@cocopb.com www.cocopb.com

4技能の英語力検定

ジーテック

シービーティ

GTEC CBT

Global Test of English Communication Computer Based Testing



全国
47都道府県に
公開会場を
設置

大学入学者選抜で活用できる

4 Listening / Reading / Speaking / Writing 4技能のスコア型英語力検定

GTEC CBTは、13年度66万人の中高校生にご受検いただいたGTEC for STUDENTSの知見を活かしてベネッセコーポレーションが開発した、4技能のスコア型英語力検定です。

より英語運用力の高い高校生を選抜されるにあたり、ぜひGTEC CBTのスコア活用をご検討ください。

特長
1

4技能の英語力を
多角的に測定

- 日本の高校生の英語力に合った出題
- 4技能の英語力をスコア型の絶対評価で測定

特長
2

アカデミックな英語の
運用力を測定

- 大学入学後の英語での学びや留学後を想定した出題

特長
3

厳密性の高い
実施環境

- コンピュータ実施により問題漏洩を防止
- スコアの大学への直送が可能

特長
4

高校生の受検
しやすさを追求

- 全国47都道府県に公開会場を設置
- 受検料：9,720円（消費税8%込）

GTEC CBTスコア活用予定校の一例

下記のような大学が、すでにGTEC CBTスコアの入学者選抜でのご活用を予定してくださっています。

筑波大学 / 九州大学 / 首都大学東京 / 名古屋工業大学
青山学院大学 / 中京大学 / 関西学院大学

※最新の情報は下記Webサイトをご確認ください。

※ここでご紹介した内容は2014年4月時点のものであり、変更となる可能性があります。

Webサイトでサンプル問題もご確認ください

<http://benesse-gtec.com/cbt/>

GTEC CBT

検索

学生募集に繋がる外部検定試験の活用法について相談を承ります。
以下のようなご相談等がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

- 外部検定試験を一般入試で活用する有効な方法を教えて欲しい
- 貴学合格者の高校3年生段階のGTEC平均スコアを学部別、入試方式別に教えて欲しい
- GTECと他社検定とのスコア相関を教えて欲しい

お問い合わせ

0120-369740

通話料無料

受付時間
月～金 10:00～20:00（年末年始除く）

教育の現場から。



第45回 「博報賞」 推薦受付中

推薦受付期間：2014年4月1日(火)～6月30日(月)

※当財団必着

●以下の5部門において、すぐれた実践・指導・研究を顕彰いたします。

国語・日本語教育

特別支援教育

日本文化理解教育

国際文化理解教育

教育活性化

◎候補者資格

5部門における小・中学生を中心とする児童・生徒を
対象とした教育実践者・団体。

◎団体：小学校・中学校・研究団体・ボランティア団体など

◎個人：実践活動を推進されている先生・研究者・ボランティアの方々など

※応募に際しては、教育委員会など教育関係の第三者による推薦が必要です。

◎賞の内容

博報賞

5部門合わせて20件前後

◎正賞：賞状 ◎副賞：100万円

◆文部科学大臣奨励賞

「博報賞」の受賞者の中から、特に奨励に値するものとして贈られます。

博報教育特別賞

「博報賞」とは別に、広く教育的見地から
功績著しい候補がある場合に贈呈します。

◎第45回「博報賞」審査委員 (五十音順)*は審査委員長

押谷由夫(昭和女子大学大学院 教授) / 鹿毛雅治(慶應義塾大学 教授) / 新富康央(國學院大学 人間開発学部長*) /

田村 学(文部科学省 教科調査官) / 柘植雅義(筑波大学 教授) / 寺井正憲(千葉大学 教授) / 森山卓郎(早稲田大学 教授) /

結城 恵(群馬大学 教授) / 吉谷武志(東京学芸大学 教授) / 四日市 章(筑波大学 教授)

詳細については博報財団ホームページをご覧ください。http://www.hakuhodo.co.jp/foundation

博報財団

検索

公益財団法人 博報児童教育振興会 〒107-0052 東京都港区赤坂2-11-7 ATT新館8階 ◎TEL.03-5570-5008 ◎FAX.03-5570-5016

博報財団
HAKUHO FOUNDATION

異文化間教育学会 第35回大会準備委員会

大会準備委員長 塘 利枝子 (同志社女子大学)

事務局長 沼田 潤 (同志社大学)

委員 王 舜賢 (同志社女子大学)

黄 琬茜 (同志社大学)

劉 媛媛 (同志社女子大学)

学生スタッフ 同志社女子大学生・大学院生

同志社大学大学院生

表紙デザイン：同志社女子大学 栄光館

1932年米国ファウラー家の寄付をもとに建築された、同志社女子大学のシンボリック建造物。国の登録有形文化財に指定。

異文化間教育学会 第35回大会プログラム

発行日 2014年5月10日

発行者 異文化間教育学会 第35回大会準備委員会

委員長 塘 利枝子

〒610-0395 京都府京田辺市興戸

同志社女子大学 塘 利枝子研究室内

E-mail: ibunkaky@dwc.doshisha.ac.jp